

第218回 大阪小児科学会

◇◇ プログラム ◇◇

■ Aセッション(14 : 00～14 : 24)

座長 西垣敏紀 (大阪警察病院 小児科)

1. 血清ナトリウム値194mEq/Lを認めた一例
大阪市立総合医療センター 小児総合診療科
渡部 瑤, 松田百代, 久富隆太郎, 藤丸季可
2. 新生児精巣捻転が疑われた一例
大阪警察病院 小児科¹⁾, 泌尿器科²⁾
三好真央¹⁾, 田中裕子¹⁾, 山下朋代¹⁾, 若原珠美¹⁾, 小出竜雄¹⁾, 山中庸平²⁾,
本郷祥子²⁾, 西垣敏紀¹⁾

■ Bセッション(14 : 24～15 : 00)

座長 金子一成 (関西医科大学 小児科)

3. Child Death Review (CDR) と日本小児科学会の取り組み
～小児死亡時対応講習会に参加して～
大阪医科大学 小児科教室
新田雅彦
4. 小児在宅医療に関する人材養成講習会 (平成29年度厚生労働省委託事業在宅医療関連講師人材養成事業) の参加報告
大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学¹⁾, 淀川キリスト教病院 小児科²⁾,
国立成育医療センター総合診療部 緩和ケア科³⁾
冬木真規子¹⁾, 佐々木満ちる²⁾, 余谷暢之³⁾, 新宅治夫¹⁾, 濱崎考史¹⁾
5. 国際社会小児科学小児保健学会「ブダペスト宣言 (On the Rights, Health and Well-being of Children and Youth on the Move)」
一本宣言の意味を日本から考える—
佛教大学 社会福祉学部¹⁾, 耳原鳳クリニック²⁾
武内 一¹⁾²⁾

■ 総 会(15 : 00～15 : 15)

議長 原田佳明 (協仁会小松病院 小児科)

教育講演(15 : 15～16 : 15)

座長 恵谷ゆり (大阪母子医療センター 消化器・内分泌科)

新専門医制度 更新基準 ii 専門医共通講習 (1点) 対象講習
医療倫理「社会的入院を要した子どもたち」

石崎優子 (関西医科大学 小児科学講座 関西医科大学総合医療センター 小児科)

※単位の取得には、60分の講演にすべて出席することが必要です。

遅刻や途中退席の場合、聴講は可能ですが、単位は取得できません。

座長 南 宏 尚 (愛仁会高槻病院 小児科)

6. 後天性声門下腔嚢胞の1歳男児例

社会医療法人 愛仁会 高槻病院 小児科¹⁾,
社会医療法人 愛仁会 高槻病院 小児集中治療科²⁾,
社会医療法人 愛仁会 高槻病院 小児外科³⁾
近藤 淳¹⁾, 起塚 庸²⁾, 橋村裕也¹⁾, 内山敬達¹⁾²⁾, 津川二郎³⁾, 西島栄治³⁾,
南 宏尚¹⁾²⁾

7. 陽・陰圧体外式人工呼吸器による持続陰圧呼吸補助が奏功した特発性縦隔気腫の4歳児例
高槻病院 小児科¹⁾, 高槻病院 小児集中治療科²⁾

小山智史¹⁾, 起塚 庸¹⁾²⁾, 福嶋志穂¹⁾, 大西 聡¹⁾²⁾, 橋村裕也¹⁾, 内山敬達¹⁾,
谷内昇一郎¹⁾, 南 宏尚¹⁾

8. 急性腹症が先行した川崎病の4歳男児例

大阪医科大学泌尿生殖・発達医学講座 小児科
福田弥彦, 山崎哲司, 松村英樹, 芦田 明, 玉井 浩

- A~Cセッションは講演各6分, 討論各6分とし, 教育講演は講演50分, 質疑応答10分とします。

第10回「低線量被ばくを考えるセミナー」

日時: 2018年6月23日(土)

大阪小児科学会 (大阪市立大学医学部附属病院5階講堂) 終了後開催

会場: 学会終了後, 同じ会場で引き続き開催。講演と質疑で約2時間を予定。

低線量被ばくは大丈夫か

大阪大学大学院 医学系研究科
保健学専攻 医療技術科学分野医用物理工学講座
放射線生物学教室 教授
本行 忠志 先生

福島第一原発事故に25年先行して起きたチェルノブイリ原発事故で生じている低線量被ばくでの疾患発生例や放射線感受性の個人差の問題等を中心に低線量被ばくの影響を考察していく予定。また、動物実験をもとに原発事故の避難計画についても触れたい。

参考資料: 生産と技術 第66巻 第4号 (2014)「低線量被ばくは大丈夫か」

[主な研究テーマ]

1. 低線量放射線の生物影響とその防護
2. 高線量放射線の生物影響とその防護

主催: 大阪小児科学会地域医療委員会